

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成19年 7月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4671000190
法人名	医療法人 全隆会
事業所名	指宿みどり館
所在地 (電話番号)	鹿児島県指宿市東方7521番地3号 (電 話) 0993-24-5161
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1階
訪問調査日	平成 19年 7月 1日

【情報提供票より】19年 5月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 10年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1人, 常勤換算	人

(2)建物概要

建物形態	併設/単独		
建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	840(日額) 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	830 円	

(4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.3 歳	最低 76 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	指宿竹元病院 まつもと一広歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、のどかな自然環境に恵まれた郊外にあり、指宿の特徴のひとつである温泉を楽しむことができる。時代の流れを見越して、大規模よりもアットホームな環境が認知症高齢者には重要と考え、平成10年より開設している。管理者を中心に理念に基づいた取り組みを行い、チームワークもよく勉強意欲もある。今回の自己評価も職員全員で取り組み、改善課題については早速改善に取り組むなど行動力もある。母体法人のバックアップ体制も整っており、医療面において、利用者・家族・職員とも不安なく生活できる環境にある。家族との交流も大切にしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での主な改善課題について、職員間で話し合いを持ち改善を行っている。理念をホーム便りに毎回掲載している。難聴者の方がいて、テレビの音が大きいことへの改善として、難聴者の方をテレビの近くに座っていただくなど利用者の配置により改善している。また、テレビの音やBGMが重ならないよう配慮している。市町村への関わりは、グループホーム協議会の発足により連絡が密になっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、スタッフ会議や昼の休憩時間等を使って職員全員で行っている。自己評価での改善課題について、職員間で話し合い改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 主な討議内容は、みどり館の説明、前回の外部評価の調査報告、日々の活動内容・行事について、1年間の振り返り等である。討議内容を活かして、指宿地区のグループホーム協議会の発足、地域との交流の方法としてのみどり館便りの送付、地域との連絡体制、火災に対する連絡方法等について取り組んでおり、サービスの質の向上につなげている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の暮らしぶりや職員の異動等については、毎月発行するみどり館便りで報告している。個々の生活状況・心身状態・金銭管理・食事・排泄・入浴に関する情報は、毎月部屋担当の職員が書面にて家族へ報告している。面会時にも個別に報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との連携の必要性は感じているが、現在は、自治会の夏祭りの参加程度である。みどり館便りを発行し地域の回覧板等を通じて、ホームの活動を地域に紹介している。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考え独自に理念を作り上げている。「笑顔」「安心」「思いやり」を大切にし、利用者一人ひとりの権利と尊厳を守り、日々の生活の安全に配慮しながら、家族や地域との関わりも大切にすることを目指した理念となっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	トイレの壁・冷蔵庫の扉・洗面所の壁など、視野に入る場所に理念を掲示して、理念の実践に向けて取り組んでいる。朝の申し送りや職員会議等で具体的に話をして共有している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会・地域活動等には積極的に参加しておらず、地元の人々と交流の場は設けていない。自治会の夏祭りに参加はしている。みどり館便りを発行し地域の回覧板等を通じて、ホームの活動を地域に紹介している。	○	地域との交流の必要性は感じている。地域の代表者や運営者との話し合いを持ちながら、できるだけ地域の行事等に参加できるよう努力することを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善課題に対して、職員間で話し合い改善に取り組んでいる。今回の自己評価もスタッフ会議やお昼のお茶の時間等に話し合い、最終的にスタッフ会議で集約し全員で取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、利用者・家族代表・市役所の職員・民生委員・法人代表者等の参加がある。地域との関わり方や火災時の連絡方法、指宿地区のグループホーム連絡協議会の発足等、会議での意見やアドバイスをサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加があり、情報交換を行っている。指宿地区のグループホーム連絡協議会が発足し、定期的に市町村担当者や他ホームとの情報交換を行い、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の部屋担当の職員が、生活状況・心身状態・金銭管理・食事・排泄・入浴等について、毎月書面で報告している。日常の様子は、毎月発行する「みどり館便り」や面会時に報告している。職員の異動等については、みどり館便りで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情箱を設置しているが、今まで投書がない。面会時におたずねしてもなかなか意見が出てこない。家族へのアンケートを実施した。アンケートの内容・結果への対応等は職員全員で話し合い、5月の遠足の時に利用者・家族に報告をしている。今後も定期的に行っていく。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動は行わない。管理者は職員の相談を受け、離職を最小限に抑える努力をしている。新しい職員が入る場合は利用者にきちんと紹介し、導入方法に気を配っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で新人研修を行っている。外部の研修は、職員の経験に応じて受講するようにしている。受講後、報告書を提出し職員間で共有している。ホーム独自の研修会も行っている。月1回の法人内の施設連絡会で研修報告を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島地区認知症グループホーム連絡協議会の設立によって地域の同業者と交流し、他のホームと相互訪問等を行ったり、勉強会の機会を作り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に必ず事前に本人に会いに行ったり、家族と利用者にホームを見学してもらっている。本人の納得を得てからサービス利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理方法や昔からの慣わし等、利用者から学ぶことが多い。体験談を聞き、感銘を受けることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で、一人ひとりの思いや暮らしの希望・意向の把握に努めている。言葉がなかなかでない人の場合は、家族から聞きだしたり職員が観察により感じたことを大切に、本人本位の視点で職員間で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人からは随時、家族からは電話や面会時に意見や要望を聞いている。全職員で話し合い、介護計画の作成に活かしている。個別・具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化を見かけたら、その都度見直しを行っている。介護計画の見直しを6ヶ月に1回行っている。	○	変化の兆しに予防的に対応していくために、見直し期間の検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	本人・家族の状況に応じて、 通院介助の支援を行っている。 近隣の高齢者が状況に応じて ショートステイを利用できるよ うに、グループホームの多機能 性を強化した。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	本人及び家族の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医で受診できるよう支援 している。情報の伝達方法は、 個別の連絡帳を活用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	家族会や行事の時に、重度化 や終末期に向けた方針を共有 している。医師や医療機関と は密に連携を図り、対応して いる。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや 対応、記録等の個人情報の取 り扱いをしていない	秘密保持は徹底している。言 葉のトーンによっては、相手 を不快な気分させてしまうこ とがある。業務に追われゆっ くり話ができず、利用者が聞 き取れないこともある。スタッ フ会議で必ず月1回は、会話 の仕方や語調について勉強会 を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとりの ペースを大切に、その日をど のように過ごしたいか、希望 にそって支援している	おおまかな一日の流れはある が、利用者各自のペースや 体調を配慮しながら、でき るだけ個別性のある支援を している。言葉かずの少ない 方へは、要望を引き出す工夫 を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、何を食べたいか利用者にとずねて決めている。外食・弁当を年2回程度計画している。調理・盛り付け・片付け等利用者のできることを支援し、職員とともにやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、午後に入浴を行っている。利用者のその日の希望を確認している。入浴希望があれば毎日でも入浴できる。異性の介助に対して、様子を見ながら介助が可能か判断している。今後、入浴に対する希望があれば取り組んでいきたい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事前に生活歴を把握し、一人ひとりに合った役割や楽しみを見つけて、日々の生活の中で言葉かけや場面作りに取り組んでいる。農作業・浴衣の着付け・踊り等利用者・スタッフに指導してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日行っている。内向的な利用者も表情や動きを観察し、外出の機会を設けるよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。利用者の精神状態が不安定な時には、稀であるがやむをえず鍵をかけることもあるが、家族の同意は得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間・夜間両方の場面を想定して、年2回消防署の協力を得て避難訓練を行っている。建物の周りの避難通路の段差をなくし、車椅子での避難がスムーズにできるよう環境の改善を行っている。	○	法人・事業所の訓練だけではなく、地域住民の参加・協力を得ながら避難訓練等を実施することや非常用食料・備品等について検討することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的に併設施設の栄養士に相談して専門的なアドバイスをもらっている。食事摂取量・水分量を把握している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭の手入れも行き届き、窓からの眺めから季節の移り変わりを感じる。ホーム内にも季節の花を飾ったり、装飾も家庭的な雰囲気作りに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真・椅子や家具・日用品などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせる居室作りに取り組んでいる。家族への声かけは、引き続き行っている。		